

## 【1.体制】

医事室員2名が兼務、およびシステム室専従1名の3人体制で対応している。

「障害・保守」「企画・購入」「規程整備」「セキュリティ対策」などを担っている。

## 【2.取組内容と実績】

部署の行動計画と実績を4つの視点で報告する。

## 1. 業務プロセスの視点

## (1) システム利用停止に関する対策整備

サーバー障害やサイバー攻撃への対策として、以下を実施した。

- ①サーバーの日常監視業務の確立（モニタリングと記録の実施）
- ②サーバーの定期メンテナンス業務の実施（6月、11月）
- ③オフライン二次バックアップシステムの整備（3月）
- ④サーバー障害時自動メール通知システムの整備（3月）

## (2) IT活用を推進する体制の構築

ITを積極的に活用する組織文化の醸成のために、以下を実施した。

- ①各部署のITリーダーが参加する情報システム運営委員会の定期開催（2カ月1回）  
時間確保が難しく、参加者数が少ない状況である。議題の設定も改善が必要である。
- ②各種ITツールの活用シーンの拡大
  - ・RPA 作成2事例（褥創チェック対象者の通知メール、パスワード変更督促メール）
  - ・ダイナミックテンプレート作成10事例（GF/CF、胃瘻交換、輸血、入退院支援、持参薬、NST褥創回診、FLS、バーセル指数、軒下カンファ、栄養士記録）
  - ・LINEWORKS（非常時の情報伝達、掲示板、アンケート機能）
- ③システムレビュー対応  
必要資料を済生会本部に提出し、「指摘事項なし」の結果であった（11月）

## 2. 財務の視点

## (1) 優先度が高いシステムを確実に計画通りに実施する

費用面も考慮した最適な構成を関係部署・ベンダーと検討し、導入・更新のサポートを行った。

- ①ホームページ更新（8月）
- ②物流管理システム更新（10月）

- ③心電図ビューアシステム更新（2月）
- ④ME機器管理システム更新（3月）
- ⑤輸血・細菌管理システム更新（3月）
- ⑥感染管理システム・・・利用状況を勘案し、マスタメンテナンスのみ実施（コロナ、インフルエンザを追加）

## (2) システム保守の適正化

- ①保守契約の更新手続き時の運用ルールの整備はできていない。
- ②済生会本部から情報提供があった「システム保守費用適正化コンサルタント」の精査を行い、株式会社システムリサーチと契約を締結した。次年度から保守費用の削減に向けて取り組みを開始する。

## 3. 顧客の視点

顧客（患者、職員）の要望を汲み取り、障害対応や最適なITツールの提案・作成を行った。

- (1) 各種ACCESSツール作成（略語集、病床利用状況、診察券発行、発熱外来患者情報用紙発行等）
- (2) オンライン診療のサポート（コロナ感染症の臨時的な対応を新たに実施：外来3日間及び在宅3人）
- (3) 発熱外来用の事前スマホ問診の活用により、外来看護師・受付スタッフの業務効率化を実現

## 4. 学習と成長の視点

## (1) 学習環境の定着化（場所を問わずスキマ時間に学習できる環境）

CandyLink、院内YouTube、LINEWORKSの組合せによる、オンラインでの学習環境の整備ができ、定着化することができた。研修動画データの編集作業の機会が増え、サポートを随時行っている。

## 【3.今後の課題】

- ・セキュリティ対策の強化（ウイルス対策、各種設定の見直し、サイバー保険）
- ・システムダウン時の対応訓練、マニュアル整備
- ・システム保守費用の削減
- ・DXを推進するための組織強化（システム室及び各部署ITリーダーの育成）